

目をこらひて (16)



我が家の次男・耕太が一歳の頃のこと。

保育園の連絡ノートに「水をいやがります。浴槽に入れようとすると足をちぢめて泣きます」と書かれていたことがあった。家でお風呂に入る時は、たいてい機嫌良く入っていたので、とても意外な気がした。

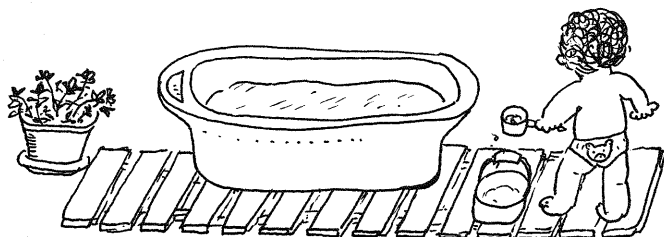
このことが頭に残っていて次の休日、ベランダにベビーバスを出してやってみることにした。

ベビーバスに水を入れ、まず耕太をひよいっと持ち上げて中に入れようとしたら、果たして、泣きました！ 泣きました！ 大きな声で泣きました。

「へー、本当なんだ！」と妙に感心してしまう私。長男も水を怖がっていた時期があったから似たのかなあ、なんて考えながらしばらくそのまま放っておくことにした。せっかくだから夏の太陽を浴びながらベランダで遊ばばいい、と思いがら。

私も耕太のそばで、プランターの花に水をかけたり洗濯物を干したりしていた。

ゆっくり時間が流れていた。



ベランダで... ゆっくりしっかり自分で遊び出した 耕太(1才)



耳をすまして

しばらく経った頃、バシヤバシヤと水に触る音が聞こえてきた。耕太が水で遊び始めたのだ。

顔にバシヤバシヤと水をかけ次には水に濡れた手を顔にペチャペチャと当てたりして、それを何回もやるとやおらヨッコラショと足を持ち上げ、水の中に自分から入っていったのだった。

水の中はとびきり気持ちよかったのだろう。出たり入ったりを繰り返しながら遊び続けた。

*

持ち上げられて入れられたプールは怖いけれど、面白くなって自分から入ってみたプールは楽しくてしょうがない。同じプールなのに『させられる』と急に不安な気持ちになる。

状況の中で、子どもの行動が生まれている。状況が変われば子どもの行動も変わる。それを知るためには、長く見ていなければ分からない。子どもの心に寄り添って見ていなければ分からない。やっぱりこうして目をこらす。

絵と文 宮里暁美 (目黒区立ふどう幼稚園)

